

古今東西 くんぐん 行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し
市民の皆さまの活動の様子な
どをお伝えします

地域の自主防災活動の中心的な役割を担う仙台市地域防災リーダー（SBL）の皆さんの取り組みを、2回に分けてお伝えします。

地域を知り、訓練に生かす

地域防災の中核として、平常時には自主防災計画の作成や防災訓練の企画立案を、災害時には避難誘導や避難所開設等の活動を行うSBL。市が養成を開始してから今年で11年目を迎え、700人を超える方々が各地域で活動しています。

泉区高森東地区の安保文尋さんは



▲簡単にランタンが出来上がる物がある。身近にある物がアイデア次第で防災に生かせるのですね

「水害の恐れがある区域には指定されていないので、地震を想定した防災訓練を実施しています。SBLが中心となって訓練の企画を練り上げ、毎年何か一つは

改善しながら行っています」と話します。一昨年からコロナ禍に対応した避難所開設訓練も行っているそう。「コロナ対応には最初の受け付けが重要です。避難所には一般避難者や要援護者、体調の悪い方などいろいろな方が来ます。互いに接触しないよう、受け入れの段階から導線を分けました。最初は口頭で案内していましたが、2回目からはそれぞれ看板も設置しました」。

宮城野区福住町の大内幸子さんは「この地域は昭和61年8月の台風で大きな被害を受け、行政の支援には限界があることを経験しました。そこから『自分たちの町は自分たちで守る』を合言葉に、住民名簿の作成や全員参加型の防災訓練などに取り組んできました。特に力を入れているのが安否確認。災害時には各家庭で無事を知らせる白い旗を家に掲げ、旗の出していない家を班長が声掛けすることになっています。3月の福島県沖を震源とする地震の際にも迅速に安否確認ができました」と話します。地域ごとに状況は違いますが、お二人の話に共通するのは訓練を続けることの大切さ。繰り返し行うことで

より良い方法を編み出し、いざ災害が発生したときも的確に対応されている様子には本当に頭が下がる思いです。

楽しみながら防災を学ぶ

若林区荒町地区の若生彩さんは、防災の知識や災害時に役立つ知恵の啓発にも力を入れています。「小学校に開

設される社会学級に参加した縁でSBLに誘われ、養成講座を受講しました。今では他の地域の社会学級から防災講座を依頼されることもあり、地域ごとの災害リスクなどについてお話ししています。つながりの中で防災の知識を共有する、それがいざというときに力になると感じます」と話します。私も防災講座で紹介しているランタン作りに挑戦！身近な物が防災グッズに代用できることに驚きました。「防災グッズを買わなくても工夫次第で日用品を使い回せる。そういう知恵を皆さんに知ってほしい」と若生さん。これならお子さんも簡単に作ることができ、楽しみながら防災を考える機会になりますね。

共助で地域を守る

共助の要として、地域に根差した活動を実践されているSBLの皆さん。共助の輪が広がるのが、安全安心なまちづくりの基礎、ひいては都市の強靱化（じんか）につながるのではないのでしょうか。次号では、引き続き皆さんの活動にかける思いなどをお伝えします。

仙台市地域
防災リーダー
(SBL)
の皆さん



安保文尋さん



若生彩さん



大内幸子さん

●防災ランタンの作り方は市ホームページをご覧ください



再生紙を使用しています 紙へリサイクルできますので、雑誌として分別してください